



2023年9月 第752号

教会だより

カトリック甲府教会 月報

〒400-0032 山梨県甲府市中央2-7-10

Tel / Fax 055-237-2531 <http://catholic-kofu.com>

編集・発行 カトリック甲府教会 広報委員会

2023年8月23日 年間第21主日ミサでのお説教

カトリック甲府・塩山教会 主任司祭 芹沢 博仁

今日の福音書の箇所は、異邦人の女性の願いをイエスがきいて娘が悪霊を追い出してもらったという話として私たちがよく知っているものだと思います。『私を憐れんでください。』これはマタイが書き加えた女性の言葉となります。

もう一つ『主よ、どうかお助け下さい。』どうかお助け下さいという訳になっていますけども、もとの言葉では「どうかわたしをお助け下さい」となっています。これもマタイが書き加えた言葉になりますけども『主よ、私を憐れんで下さい。』ここに目を留めながら、あれこの話は何だったんだろうと思うと、あれ、娘さんが苦しんでいたのにお母さんが「私を憐れんで下さい、私をお助け下さい」というものになっている。

元のマルコの福音書は、女は娘から悪霊を追いやってくださいと頼んだと書かれているわけです。でもマタイでは一言もこの母親が娘を助けてください、悪霊を追いだしてくださいと願っていない。私を憐れんで下さい、助けてくださいと書き変えている。さて、私たちはこうやって女性の言葉に目を留めてどう考えるか。娘を助けてくださいと頼まない、なんとひどい母親だと理解するか。ま、たぶん聖書ですからそんな書き方はしていないのですが、実際イエスも「あなたの信仰は立派だ。あなたの願いどおりになるように」と言っているので、お前は母親として失格だ、人としてどうなのかという批判はないわけです。

このあなたの信仰は立派だ、あなたの願いどおりになるようにというのもマタイの書き変えた言葉ですから、母親である女性を批判しようという風にして描いているわけではないのです。わたしたちはここを少し考えていかなければならないんだろうなと思います。実際には、わたしたちも自分の生活とか仕事の仲間とか友人とかあるいは全くの他人とかこの女性の様な思いを見出すことは珍しいことではないのです。

私にとって考えるきっかけとなった田口ランディという小説家があります。私が静岡県で働いていたときに信者の人から紹介されたのですが、彼女のエッセイの中でこんな話があります。ある日、障害のある友人から「俺の苦しみはお前にはわからない。」まあ、そんなよう

に言われたと。田口さんは小説家ですから『この友人のために何もしてやれない私の苦しみ
が解るのか』と言ってやりたかった、と。でも当然言えないわけで、障害があるのは友人本
人ですから、でもなにもしてあげられない私の苦しみもあるのだと。でもまあ相手には言え
ない、それをエッセイに書いています。でも実際わたしたちにもあるわけです。何とかして
あげたい、助けてあげたいでも何もしてあげられない、私たちも決して少なくなく経験して
いる。なにかしてあげたい、またそれが十分ではないことも知っている。そんな思いも私た
ちの中にあるわけです。この福音書の話に戻ると、このお母さんはなにを言いたいんでしょ
うか。娘の苦しみを訴えているわけですね。娘を助けることはできない。自分は母親であ
りながらも何にもしてあげられない苦しみを訴えていたんだ。そう読むと自分のことしか考
えていない母親とか女性とかいうのではなくて、私たちも何かしてあげたい、何もできない、
そんなときにマルコのようにあの人を助けてあげてくださいとお祈りすることもできるわ
けですけども、今日私たちが学んでいきたいところはマタイのように何もしてあげられな
い私の苦しみを主に、神に訴えに来る。こうして母親の、この女性の苦しみ、訴えが聞かれ
たとか取り除かれたというのではなくて、その時、娘の病気が癒された。だから私の悲しみ
や苦しはそのもとになっているその人の悲しみや苦しみが取り除かれないうぎり、私の悲
しみや苦しはいつまでもある。

こういう関係、関わりの中で私たちの祈りかたというのがあり、ただ、マルコはその人
のためだけにいのるのではなくてその人ともはや切っては考えられない私のことをやっぱ
り訴え続ける。逆にその人を見続けなければならない私の悲しみや苦しこそ私の祈りの力
になる。そこも考えて私たち今日の福音の中に出てくる女性に目を留めながらこの物語が私
たちに語りかけてくる、あるいは、招いているところではないかなと思います。あなたの願
いどおりになるようにといて母親の苦しみが、娘が苦しんだまんまで母親の悲しみ苦し
みがなくなりましたという話は当然あり得ない。私たちはこうしたことを自分の身の回りの中
でその人の姿によって動かされる私の心を本当に力として祈っていく、そういうものであり
たいなと思いますし、またもしかしたらそうしたことにおいて私たちはまた同じ思いを、あ
るいは同じ人に対して、同じことに対して気を向けていくことができるのではないかなと。
きょうのこの女性に母親に目を留めながら、私たちは自分の中にある神の憐れみとか神の助
けを願うそのような思いをぜひ大事にしながら、そして私は当人ではないからというのでは
なくて、まさにこの思いをこそ神に訴えかけていく力なのだということにおいてぜひぜひ大
切にしていきたいなと思います。

もしわたしたちが神の国をあるいは私たちの社会をと思う時にやっぱり同じような思い
を心に残してもらえ、あるいはそのようなものを私たちの共通点として人としての共通点
として持っていったら、本当に祈りは一人の祈りではなくて多くの人々の祈りとか願いに変
わるのではないかなと思います。今日の女性の、母親の姿を見ながらそれは私の中にもある
姿だし、それは大事にすべき姿なんだと受け止めて自分の信仰は何なのかという時に、人の
悲しみや苦しみだけではなくてそこから出る私の悲しみや苦し、そして無力感というもの
が本当に神を動かす、神に聞き入れられる祈りに変わっていく、そのことを大事にしたいと
思います。

(記 今井)



おしらせ



1 敬老の集い

9月17日(日) 11:30 ~ サンタルチア講堂にて敬老の集いが行われます。
対象者は75歳以上の信徒の方となります。対象者のご家族の方には、軽食を用意してありますので、ぜひ一緒に参加をお願いいたします。

2 教会委員会

9月10日(日) 11:30 ~ サンタルチア講堂にて教会委員会が行われます。
※当日参加できない場合は、代理の方に出席をお願いしてください。

3 世界難民移住移動者の日の献金(9月24日)

「世界難民移住移動者の日」は、9月最終日曜日です。1970年、時の教皇パウロ6世が、教皇庁移住・移動者司牧評議会を設立したことを受け、「各小教区とカトリック施設が、国籍を超えた神の国を求めて、真の信仰共同体を築き、全世界の人々と『共に生きる』決意を新たにする日」として設立されました。

「世界難民移住移動者の日」では、おもに滞日・在日外国人、海外からの移住労働者、定住・条約難民、外国人船員や国際交通機関の乗組員とその家族のために「祈り・司牧的協力・献金」がささげられ、それらは日本カトリック難民移住移動者委員会を通じて、幅広く支援に役立てられています。

4 地域福祉委員会

フリーマーケットの出店募集について

①開催日時 2023年11月12日(日) 11時30分~13時30分 ②場所 甲府カトリック教会 ③申込資格・教会内 各ブロック、各外国籍グループ、他教会委員会組織内の常任委員会・女性会等の会(個人や有志で参加を希望される方は、所属のブロック、または所属の外国籍グループ責任者に相談し、当該ブロック・グループより出店されるようお願い致します。)
・教会外 甲府カトリック教会に関連する福祉団体及び店舗 ④申込方法出店を希望される前 ③項の出店資格のある組織の責任者は、9月17日(日)までに「2023年 地域福祉団体協賛フリーマーケット開催要領」に従い所定の申込用紙をご記入の上、地域福祉委員会 木村までご提出をお願い致します。なお、開催要領及び申込用紙はセンタ入口に封筒に入れて置きますのでご自由にお受け取り下さい。

- | | | | | |
|---|---------|----------|---------|----------|
| 5 | きずなの会 | 9月13日(水) | 10:00 ~ | センターホール |
| 6 | 典礼委員会 | 9月16日(土) | 9:00 ~ | センターホール |
| 7 | 地域福祉委員会 | 9月24日(日) | 12:00 ~ | サンタルチア講堂 |
| 8 | 広報委員会 | 9月24日(日) | 11:30 ~ | センター事務所 |

【訃報】マリオ・ビヤンキン神父（ミラノ外国宣教会）

ミラノ外国宣教会よりお知らせをいただきました。

同会司祭、マリオ・ビヤンキン（Mario Bianchin, P.I.M.E.）神父様が、8月8日（火）午前4時20分、小金井市の桜町病院にて帰天されました。享年82歳でした。どうかお祈りください。

.....

関係団体などからのお知らせ

NPO法人こどもサポートやまなし

①運営委員会

9月の運営委員会は、19日(火)18時30分よりサンタルチア講堂で行います。

②学習会

今月の学習会は、9月10日(日)、9月24日(日)の13時30分より山梨カトリック福祉センターで行います。

③フードバンク山梨（第12回つながるスマイルプロジェクト）の開催について

昨今の物価高等で生活困窮に追いやられたお子さまのご家庭等を支援するために9月9日(土) 10時より16時までサンタルチア講堂で行います。



9月28日 聖トマス西と15殉教者

1633年～1637年にかけて長崎で刑死した16名のカトリックの司祭、修道者、信徒で、1987年に列聖された聖人たちのことである。日本人の司祭であるトマス西、サンタマリアのヤコブ朝長、十字架のビンセンチオ塩塚の3人と、長崎のマグダナレナ、大村のマリナとして知られている女性がいた。またフィリピンの最初の聖人であるロレンソ・ルイズなど、日本から追放されたが死を覚悟して再び来日した外国人司祭もいた。彼らは、日本で列聖された最初の日本人司祭と女性である。

いちりゅうかい
一粒会とは

よこはまきょうく いちりゅうかい かいいん せいしんてき ぶっしつてきひとつぶ しゅけつ よこはまきょうく かんけい しさい
横浜教区一粒会は、会員の精神的ならびに物質的一粒を結集して、横浜教区関係の司祭の
しょうめい せいせい きよ きよ ちくてき
召命とその成聖に寄与することを目的としています。

一粒会の主な活動

- 1) 司祭の召命とその成聖のために祈りを捧げること。
- 2) 神学生の養成等、本会の目的を達成するために献金をすること。
- 3) 司祭召命の運動、一粒会大会等の開催。
- 4) 一粒会だより、一粒会通信、沿革誌等の刊行。

横浜教区一粒会のあゆみ

横浜教区一粒会は、1942年、第二任教区長・井手口三代市師の時代に正式に発足しました。設立当時、一粒会に加入したのは19小教区でした。第二次世界大戦中、また戦後すぐには、一粒会の活動が大きく発展することはありませんでしたが、1952年2月、第6任教区長として着座した荒井勝三郎司教は、一粒会を積極的に推進するように関係者に要請し、1956年には、その活動は28小教区にまで広がりました。また、荒井司教は、以前から提唱していた小神学校設立構想を発表し、併せて、一粒会にその協力を要請しました。その際、司教のもとに、司教総代理ほか数名の司祭、数名の信徒で構成される一粒会本部委員会が設立され、また、地区長ほか数名の信徒による地区委員会、主任司祭と数名の信徒による小教区委員会も設けられました。1962年の小神学校の建物が完成してからも、一粒会は本部委員会を中心とした全教区におよぶ組織を継承し、設立の目的を果たすために活動を続け、現在に至っています。

※山梨地区一粒会では、一粒会会員を募集しています。詳しくは小教区担当一粒会委員（今井、津島）までお尋ねください。

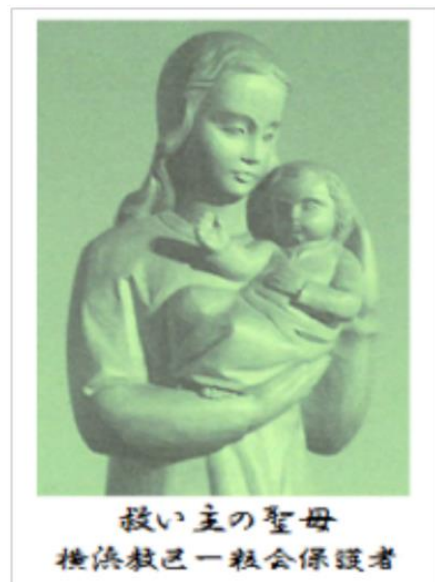
一粒会会員の祈り

《司祭の召命を求める祈り》

神である父よ、教会に聖霊のいぶきを注いでください。
あなたの愛の招きにこたえて、神とひとびとに使える
司祭を
わたしたちのうちから召し出してください。
主、キリストによって。 アーメン。

《呼禱》

使徒の元后、われらのために祈りたまえ。
日本の聖なる殉教者、われらのために祈りたまえ。





今月の教会カレンダー（典礼暦・外国語ミサ・行事等）



9月 1日（金）	初金	9：30	ミサ（参加制限なし）
9月 3日（日）	年間第22主日	10：30	ミサ（参加制限なし）
		14：00	ベトナム語ミサ（tiếng Việt）
9月10日（日）	年間第23主日	10：30	ミサ（参加制限なし）
		15：00	ポルトガル語 集会祭儀 （Português）
9月17日（日）	年間第24主日	10：30	ミサ（参加制限なし）
		12：30	韓国語ミサ（한글）
9月24日（日）	年間第25主日	10：30	集会祭儀（参加制限なし）
		14：00	英語ミサ（English）
10月 1日（日）	年間第26主日	10：30	ミサ（参加制限なし）
		14：00	ベトナム語ミサ（tiếng Việt）
10月 6日（金）	初金	9：30	ミサ（参加制限なし）

～教会維持費および墓地・納骨堂管理費の納入について～

教会維持費および墓地・納骨堂の管理費は、下記の口座へお振込いただけます。

月定献金振込先（教会維持費）

山梨中央銀行 本店営業部 普通預金 188674

墓地・納骨堂管理費振込先（毎年1月～5月中に）

山梨中央銀行 本店営業部 普通預金 1402890

受取人（宗）カトリック横浜司教区甲府カトリック教会